

辺野古通信

第35号 2013年3月31日



山城博治さんから報告

2/24 大和集会

発行 沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座(沖縄講座@横浜)
 沖縄講座 HP <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/>

4.28 主権回復の日 記念式典を中止せよ！ 辺野古埋立申請 4月24日

■3月22日、沖縄防衛局は辺野古新基地建設に向けた埋立申請を強行した。市民と報道陣の監視を避けるように、こっそりと、段ボール箱5箱を名護市内の沖縄県北部土木事務所に置き去った。その間、わずか1、2分。一昨年12月の補正評価書の県庁内搬入と同じやり口だ。沖縄県下41市町村長と議長による「建白書」提出から2ヶ月足らずの暴挙だ。「この事態はあまりにも異常である。安倍政権には、沖縄の人びとの歴史的体験に寄り添う姿勢や、心のひだを内在的に理解しようとする姿勢が、著しく欠けている」(3/23 沖縄タイムス社説) ■高江のオスプレイパッド建設阻止座り込みや普天間基地ゲート封鎖行動の最前線で闘う沖縄平和運動センター事務局長・山城博治さんを講師にお招きし、2.24 大和集会を開催した。予想を超える160人超の参加があった(2・3頁)。4月24日には、神奈川県を中心部、関内ホールで横浜集会を開催する。オスプレイ配備拒否！低空飛行訓練反対の声を、全県下に、全国に広げよう！ ■安倍首相は3月7日午前の衆院予算委員会で、1952年4月28日を「主権回復の日」として祝う、政府主催の記念式典を開催することを表明した。元々

自民党が昨年の衆院選政策集で公約していたものだ。沖縄からの疑念の声を無視して、3月12日、正式に閣議決定を強行した。沖縄を米国の軍政下に切り離し、現在にまで続く軍事植民地状況の発端となった「4.28」を、沖縄の人びとが「屈辱の日」として深く心に刻むこの日を、「主権回復の日として祝う」この感覚。この新たな沖縄切捨て宣言を、絶対に許すことはできない。沖縄で4.28当日に大きな抗議行動予定。4.28 東京シンポへ(4頁) ■3月26日、キャンプ座間で陸自中央即応集団司令部の移転完了式が挙行された。工兵部隊300人に司令部要員300人が加わった。海自と米海軍の横須賀基地、空自が昨年移転した横田基地と合わせ、日米の3軍司令部が隣接する形となり、日米軍事一体化がさらに進んだ。29日にはP3Cの後継機であるP1哨戒機2機が海自厚木基地に配備。神奈川県内の基地の機能強化が進んでいる。 ■5月25日の県央共闘会議定期総会後の記念講演の講師は沖縄タイムス論説委員の渡辺豪記者。著書「アメとムチの構図」他。ご期待を！ ■辺野古・高江カンパは累計1,381,905円(3月25日現在)。引続きカンパを！ 郵振 00210-0-2021 沖縄連続講座

オスプレイ配備拒否！低空飛行訓練反対！4.24 横浜集会へ

4月24日 (水) 18時半から

会場 関内ホール (JR京浜東北線関内駅6分)

★ 沖縄からの訴え 山城博治さん

(沖縄平和運動センター事務局長)

主催 4.24 横浜集会実行委員会

共同代表：伊藤成彦(中大名誉教授) 中野新(厚木第四次爆音訴訟弁護団長)



2/24 大和

オスプレイ沖縄配備拒否！沖縄と共に闘う大和集會に160人超



2月24日、厚木基地直下の大和市生涯学習センターにて、「オスプレイ沖縄配備拒否！沖縄と共に闘う大和集會」が開かれた。

昨年10月に欠陥輸送機オスプレイが普天間に強行配備されて5ヶ月。沖縄県下41の全市町村長と議会代表が連名で「オスプレイ配備撤回、普天間閉鎖、辺野古移設ノー」の「建白書」を総理に突きつけて直訴しても、安倍政権は一切聞く耳を持たず、2月23日の日米首脳会談で「日米合意」の履行を宣言。米軍は沖縄全島で昼夜の別なく、やりたい放題の激しい訓練を繰り返す。在日海兵隊司令部が「本格訓練開始」を宣言し、沖縄県外での低空飛行訓練をいつ始めてもおかしくない。(実際に3月6日から開始)

そんな中、集會には160人以上が詰めかけ、配布資料も不足するほどの大盛況。参加者は、沖縄平和運動センター事務局長の山城博治さんの、沖縄からの熱い報告とアピールに、最後まで聞き入った。主催は基地撤去をめざす県央共闘会議。神奈川平和運動センター後援。

冒頭、沖縄のこの間の闘いをまとめた10分程度のDVDを上映。これは藤本幸久・影山あつ子監督の最新作「ラブ沖縄」(120分)の短縮版。辺野古と高江の闘いと、今年のオスプレイ普天間強行配備阻止行動を描いたドキュメントだ。横浜のジャック&ベティなど各地で上映されている。映像には、闘いの現場で、ハンドマイク

片手に沖縄防衛局職員や建設工事業者、米軍の意を受けた沖縄県警に立ち向かう山城博治さんの姿が繰り返し登場する。

山城さんは、昨年12月16日の総選挙による安倍政権誕生の衝撃から語り始めた。全国各地を回って、「憲法が変えられて、自衛隊が国軍化されて、徴兵制が敷かれて、そのまま戦時体制に流れるのではないかという、恐怖感と切羽詰った思いが溢れていた。」と感じたという。

「沖縄の基地問題や、オスプレイ問題を語るだけでいいのか」そんな思いがしてならない、と。

「私たちには後がない。後ろのない闘いを強いられているのは間違いない。」だからこそ、「地域に張り付いて、声を上げ、これ以上の軍事強化、米軍のやりたい放題を許さないという、私たちの力強い連帯を模索し、そのことを実現しなければ、一歩も二歩も進めない。」「私たちはしっかりと、用意周到に闘いを準備しなければならない。生半可では政府を動かすことはできない。生半可では、安倍政権は聞く耳を持たない。」と強調し、全国の連帯した取り組みの強化を訴えた。(別掲、講演要旨参照)



激励に駆けつけた山内徳信参議院議員。

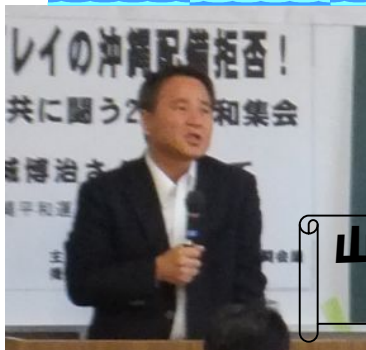


160人超の参加で、資料がなくなるほどの大盛況。

若干の質疑のあと、沖縄と神奈川の国会議員 2 名から連帯と、7 月の参議院選挙（比例区）に出馬を予定している山城さんへの激励の挨拶。山内徳信参議院議員は「闘わなければ日本はおかしくなる。横浜でもベトナムに出撃する米軍戦車を市民の座り込みで止めた闘いがあった。私もその時に横浜市長の飛鳥田さんに会いに来て、素晴らしい闘いについて教えていただいた。沖縄と本土が相携えて頑張る必要がある」と訴えた。神奈川選

出の阿部知子衆議院議員も、「国会でぜひ一緒に闘いたい」と山城さんにエールを送った。

集会の最後に、県央共闘の構成団体である神奈川県私鉄（相鉄労組）・自治労大和市職労・湘北教組・神奈川高教組・厚木第四次爆音訴訟団から闘争報告とアピールがあり、県央共闘・岡本聖哉代表の音頭でガンバローを三唱して閉会した。



山城博治さん 講演要旨

私たちは後のない闘いを強いられている

オスプレイの問題を訴えて、一週間かけて九州を回った。低空飛行訓練が行われるルートの各地域を回って、沖縄の現状を話し、どうやってこの奇怪な、危険極まりない飛行物体を止めるか、そのことを議論してきた。その中で感じたのは、昨年 12 月の衆議院選挙の結果の衝撃が、あまりにも激しいこと。沖縄の基地問題だけでもなかろう、ましてやオスプレイの問題だけでもなかろう。憲法が変えられて、自衛隊が国軍化されて、徴兵制が敷かれて、そのまま戦時体制に流れるのではないか。そんな恐怖感と切羽詰った思いが溢れていた。しかし沖縄のあのような状況があるから、こういうことになったのではないか。沖縄の湧き上がる怒りを力で押さえつけて、その結果が現在の状況につながっている。確かに、私たちには後のない。後のない闘いを強いられている。そう言う意味で、分断されながらも地域に張り付いて、声を上げ、これ以上の軍事強化、米軍のやりたい放題を許さないという、私たちの力強い連帯を模索し、そのことを実現しなければ、一歩も二歩も進めない。

これは沖縄だけの闘いではない！

安倍総理が訪米して、「普天間をやはり辺野古に」という話をしてきた。3 月に埋立申請すると伝えた。2 月中は高江で工事強行の動きがあり阻止行動が続くが、息継ぐ間もなく、3 月からは辺野古の埋め立て工事の話が動き出す。(3 月 22 日に埋立申請を強行)

そんな緊迫した状況が続くが、先ほどの映像にあったように、私たちは昨年 9 月末の 4 日間、普天間基地の 5 つのゲートを封鎖し、絶対にオスプレイの配備を許さないという決意を示した。労働組合の現職組ではなく、60 歳をはるかに過ぎた、年金組が中心になった。年金組のみなさんが、沖縄の大衆運動の最前線に立って闘っている。10 月以降も、朝 6 時から 12 時まで普天間のゲート前で抗議行動が続いている。きょうのこの場にも、現職組でないみなさんがたくさん参加していると思うと、嬉しく思います。(笑) みなさん、ぜひ闘いましょう。私

も昨年 60 歳になり 3 月で定年を迎えるけれども、みなさんと一緒になって頑張ろうと思う。

昨年の 9 月 28 日、台風が近づく中、普天間のゲートを封鎖しよう、ここまで踏みにじられるなら、ここまでコケにされるなら、形で示そう。ここで尻込みしていたら舐められてしまう。なんとしても抗議の意思を示そうという思いで、封鎖行動を実行した。その時に、私の携帯メールに、「65 歳以上、前へ」というメールが流れた。すごい！（笑い）。現職組は、仕事があるからと言っている。それなら私たちが行こう。私たちが留置場を満杯にして、抗議の声を上げよう。67 年闘ってきた私たちの最後の闘いをみせよう。こういうメールが 9 月 28 日ころに流れた。私は目頭が熱くなった。先輩方に申し訳ないという思いと、私たち現職組も、精一杯頑張ろうではないか。そんな思いでみんなにも呼びかけて、あれだけの封鎖行動になった。

昨年 9 月の 10 万人集会があり、1 月には沖縄県下 41 市町村の首長と代理、議会議長、県議会議員が集まり、オスプレイ配備反対、普天間県内移設反対の「建白書」という時代があったものを作って、安倍総理に提出した。こういう沖縄の声を一切無視して、安倍首相はオスプレイの追加配備や辺野古新基地建設を進めようとしている。10 万人集会もあった。ことごとく沖縄の声は無視されている。そこまで強硬にオスプレイ配備と新基地建設を進めようという政府の無謀さ。沖縄がどう反応しようと、構わない。そのように受け止めざるを得ない。そうであれば、何回でも私たちの思いを突きつけていくしかない。同時にこのことは、全国どこでもオスプレイが飛び交う中で、反対運動が起きようと構わないということにつながる。沖縄と同じように、民意を無視して、危険な低空飛行訓練を強行してくることは間違いない。私たちはしっかりと、用意周到に闘いを準備しなければならない。生半可では政府を動かすことはできない。生半可では聞く耳を持たない。そのことは厚木基地を抱え、爆音に苛まれて、激しい住民運動や爆音訴訟を闘っても、なお変わろうとしない現実を目の当たりにしているみなさんは、よく感じていると思う。私たちは、これから新たなステージに移っての闘いをしなくてはならない。全国の仲間たちと連携をしながら、頑張っていきたい。

これは沖縄だけの闘いではない。私たちは、全国から声がかかれば、沖縄の声を伝えて、みんなの力で政府と対峙するしかない。神奈川のみなさん、ここでしっかり頑張り抜き、全国に発信をしていただきたい。

危険なオスプレイが飛び交う「番外地」沖縄

沖縄でどのようなことが起きているか。オスプレイ

昨年 10 月 1 日 普天間に降り立つ MV オスプレイ



は、市街地の上空をぶらぶらと飛び交って、いつ何が起こるか分からない。先日はオスプレイから水筒が落ちるといふ事故があった。あわや大惨事。その4日前には、米国内で大きなバケツのようなものが落下して屋根がプチ抜かれるという記事も出た。なぜこのような事故が起こるのか。オスプレイは機体の構造上、タラップの口を開けたまま飛行する。ここからポロポロとモノが落ちる。新聞記事によれば、爆弾が落ちたり、人間が落ちたりすることもある。戦場に飛び交う飛行機だから、窓を閉めないで地上の動きを確認しながら飛ぶ。実際に、兵士が落下して死亡することもある。高江の現場で見ても、本当にヘリは扉を閉めない。兵士たちがよく見える。夜に懐中電灯を向けると、搭乗員の顔に、懐中電灯の光が届く。防衛局の職員が「危ないから電灯を向けなくて」と言うから、「電灯を向ける人間がいけないのか、そんな低いところを飛び回る兵士がいけないのか。」と言った。どう考えたって、懐中電灯が届く距離を飛ぶ奴が悪い。電灯をまぶしがるのは理由があって、夜間飛行では暗視ゴーグルを付けている。これは戦場の論理。住民が暮らしている上空で、そんな低空飛行訓練をするな。米兵は沖縄の全てが訓練場だと思っている。沖縄の島に人が住んでいるなんて、考えてもいない。

訓練は昼も夜中もある。CH46は時速250キロ程度の速さだがオスプレイは500キロ以上。米国でもハワイでも、このような訓練はもうやめよう、と言っている。なのになぜ、沖縄でやるのか。

沖縄はもう、悔しいけれど「番外地」。ほとんど国内法が適用されない。やりたい放題を日米地位協定は認めている。無罪放免で米軍を追求しない。県会でも国会でも追求するが、見てみないふりをしている。特に伊江島飛行場の訓練が激しいが、その理由は「伊江島は飛行場ではなく、補助飛行場だから24時間やっても構わない」と。冗談じゃない。飛行場として認められないからこそ、安全ルールを守る必要がある。普天間飛行場の訓練が夜10時までなら、伊江島では6時までには終わるべきではないか。

日本では、1950年代に激しい反基地闘争、反米闘争があり、ことごとく本土の海兵隊が沖縄に移住した。オスプレイが行く地域、イランやアフガン、イラクは砂漠

地帯で、山岳地もある。沖縄では地上数百メートルから数千メートルもの標高差がある地形で訓練できない。やはり本土の山岳地で訓練しないと戦場で活躍できない。昨日の御殿場の学習会でも、「オスプレイは静岡には来ないのかな」という声も出たが、しかしそんなことはないと思う。

米国の議会の報告書を見ると、オスプレイの40数機が「行方不明」と記されている。事故報告を出していないから、闇から闇に葬られている。そのようなオスプレイが私たちの頭上を飛び回っている。

「領土問題」を戦争の道具にさせない！

尖閣の問題にも触れたい。与那国島という台湾に近い島がある。宮古・八重山諸島もある。中国と琉球、ヤマトの海上交易の途上に、尖閣諸島がある。誰のものでもなく、航行の目印となっていた岩礁に過ぎない。歴史的には、中国と琉球の共有財産だった。まず、歴史的な検証から始めて、歴史問題は決着すべきだ。1972年の日中国交回復交渉の中で、周恩来と田中角栄の両者で、「棚上げ論」が合意された。海底資源は共同開発しよう。日本の侵略による損害賠償も請求しない。平和友好を培う中で、将来の世代に委ねよう。そうなったからこそ、上野公園にパンダが送られて、日本中の子供たちが歓声を上げた。あれは日中友好の象徴的な事例。そこに立ち返って、友好関係の中で平和理に領土問題を解決するしかない。軍艦を1隻から2隻、3隻と増やすことで問題が解決するとは思えない。一触即発の事態を、平和理に解決していくしかない。

戦争中に、台湾への疎開を目指していた船が遭難して尖閣諸島に流れ着いた。水も食料もない島で、たくさんの遭難者が出ている。その慰霊祭を毎年石垣島で開催している。そこに目をつけた石原慎太郎さんのグループが、一緒に慰霊祭を尖閣諸島でやりたいと申し出た。遭難者の会の会長さんはこう言っている。「私たちはあのような悲劇を二度と繰り返さないという思いで、慰霊祭をしている。それをまた戦争の道具にしようというには許されない」。沖縄県民は皆、同じ思い。危機を煽り立てて軍事化するのは、昔から同じやり口。沖縄の中では、また68年前の沖縄戦の惨劇を目の当たりにするのか、という危機感が強い。沖縄戦の惨劇を繰り返さないために、命をかけてもいい。そうみんな決意している。先の戦争で20万人も死んでいる。また戦争が起きたら、島が残っていない。日米戦争で沖縄を差し出したが、今度は日中戦争で沖縄を犠牲にするんですか。そういう思いと怒りはみんな持っている。だから、戦争につながる基地反対を言い続ける。

これからも一緒に沖縄と神奈川を結びながら頑張っていきたい。

(講演を編集部の責任でまとめました)

「主権回復の日」政府式典糾弾！「4.28」を問う東京シンポジウムへ！

サンフランシスコ講和条約60+1年～オスプレイ・尖閣問題を問いただす

- 司会：二木啓孝さん(日本BS放送解説委員、元「日刊ゲンダイ」編集部長)
- 発言：大田静男さん(八重山郷土史家。著書に「八重山戦後史」「八重山の戦争」他)
山城博治さん(沖縄平和運動センター事務局長)
武藤一羊さん(ピープルズプラン研究所。「戦後日本国家という問題」他)
- 主催：2013年4月東京/5月那覇シンポジウム実行委員会

4月28日(日)18時 文京区民センター3A(三田線・大江戸線春日駅)

